

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043(222)7207 番

2000.6.2 No. 5143

## 沖縄現地派遣団報告

各支部からの派遣費カンパ  
ありがとうございました!

その2



### 沖縄サミットを粉砕するぞー

今年の動労千葉沖縄派遣団は、五月十三〜十五日の三日間十一名で参加してきました。今年の沖縄は、サミットに向けてさまざまな準備がされていきました。高速道路のわきの木々はゲリラ対策で切られ、島のあちこちにサミット参加国の旗が掲げられていました。政府・自民党と稲嶺県政は、島ぐるみでサミットを迎えようとしています。沖縄でもサミット粉砕を訴えているのは反戦共同だけでした。しかし、集会やデモを行なっていると沿道の人たちがサミットとわれわれの行動に関心を持ってい

るのがわかりました。

また、初めて嘉手納基地の滑走路が見えるところにいき戦闘機の着陸訓練を見ることができましたがすごい爆音でした。こんな爆音にさらされるところで生活するということは大変なことであり、しかもその基地の土地は自分たちの土地を取り上げられて作られたということ。本土にいてはわからぬは基地の島といわれてもなかなかわかりませんが、沖縄にいくと米軍基地に囲まれて生活しているということが実感させられます。

一日目、二日目と集会デモを

### 沖縄のこころをくもりに守り抜こう

家族会会長 佐藤 正子  
組合員の皆様、派遣カンパありがとうございました。

「森来沖阻止!」「戦争会議サミット粉砕!」を皆で闘ってきました。沖縄の地は心を熱くし、新たな力をくれるところ。戦争で命を落とした人々の心、沖縄の心が伝わってくるからでしょうか。サミット歓迎ムードが充満する国際通りや名護市内をデモしてたくさん声援やピースサインに包まれ、力強く怒りの声を響かせてくることができました。

沖縄に出かける前、学生が「沖縄の苦しみは沖縄だけのものではない。本土の皆が沖縄を自分のものにしたら戦争は止めら

れる」と訴えていました。この訴えをわたし自身の課題として参加してきましたが、現地に行っても若者たちのパワーにガンガン打たれました。「闘争に参加し2週間で、沖縄の知識はないが、認識はある。先頭で闘う」「人間として生きるんだ」等々。純粋な心で事実を真剣に受けとめ行動にたっています。その姿をみて、沖縄を自分のものとして闘っているなど感動しました。そんな若者たちと一緒にわたしも沖縄の皆さんと心をひとつにして闘っていきます。

沖縄のこころー「命どう宝」「戦争のための基地はいらない」、この沖縄のこころ、闘いをともに守りぬぎましょう。



副委員長 敏沢 敬一

行ない三日目は辺野古の新基地建設に反対している二つの住民団体に激励行動にきました。辺野古の海岸のまわりは昔からの自然が多く残りのどかできれいなところでした。しかし、有刺鉄線の向こうは米軍基地で、その沖合に新たに最新鋭の基地を造ることは絶対に許せません。七月沖縄サミットはこの沖縄の現実を全世界に認めさせ、永久的に沖縄を基地の島とするということ。これからも沖縄サミット粉砕に向けてたたかっています。

# 本土での闘いをもっと燃えあがらそう！

本部 川崎 昌浩

五月一三日から三日間、反戦共同行動委員会の仲間たちとともに沖縄現地闘争に参加してきました。

今回の沖縄現地闘争では、沖縄が米軍占領下から「復帰」して二八年目を迎えるにもかかわらず、米軍基地の「支配」という現実が何ら変わらないという現実を、改めて肌でヒシヒシと感じることができました。

とくに、一日には「那覇軍港の浦添移設に反対する市民の会」との交流会が持たれ、米軍の海兵遠征旅団（一六五〇〇人）を三〇日間支えることができる那覇軍港の機能を浦添に移すことで、極東最大の牧港補給基地と直結して世界有数の軍港になること、沖縄県、那覇市、浦添市の三者で「一部事務組合」（分担金比率六：三：一）を設立

し、それを稲嶺沖縄県知事が移設のための手段にしようとしているため、浦添市の「組合」加入反対の運動を進めていることさらに、軍港移設反対の運動を進める中で、「市民の会」に対する革マルの妨害をはねのけて闘い続けてきた貴重な話を聞くことができるなど、有意義な交流会となりました。

三日間という限られた時間でしたが、沖縄の問題が単に沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題、労働者・市民一人ひとりの問題だということを改めて痛感しました。

普天間基地の名護移設反対！那覇軍港の浦添移設反対！七月沖縄サミット粉砕に向けて、本土での闘いをもっともっと燃えあがらせなければなりません。

# 亡くなった仲間にも報告できる闘いを

館山支部 渡辺 敏博

今回沖縄闘争に参加して、三年前に「安粉粉砕！ 沖縄奪還！」、そして「三里塚闘争勝利！」のかけ声高くデモしたことを思い出しました。

沖縄の国際通りという繁華街をデモした時のことです。学生を先頭に労働者、市民会議、沖縄労組交流センターが、七月沖縄サミット粉砕の横断幕を掲げて進むと、行き交う市民から熱い注目と共感が集まりました。沿道では、学生が配るビラが吸い込まれるように受け取られていました。二日で四千枚のビラがまかれたそうです。今回の闘争は、沖縄の闘う仲間と本土で闘う仲間が「軍事基地はいらない、二度と戦争はいやだ、戦争

会議サミット粉砕」の熱い思いを込めて自信をもって闘い続けることができました。

俺は、これからも沖縄闘争、三里塚闘争を全力で闘い、一波、二波ストで解雇された仲間、一〇四七名の仲間への檄にしたいと思えます。また、闘いたくてももうできない亡くなった磯部さんや吉岡さん、大須賀さんに報告できるような闘いをしていきたいと思えます。そういう思いで一・五労働者集会にたちあがっていききたい。

最後に組合員の皆様、派遣力ンパを本当にありがとうございます。また、現地でお世話になった沖縄労組交流センターの仲間の皆様にも心から御礼を申し上げます。